



# 環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第5号 平成22年6月  
発行/環境公共推進会議事務局  
〒030-8570 青森市長島1-1-1  
青森県農林水産部農村整備課内  
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

## ■最近の話題

### 環境公共 を紹介する冊子を作成

県では、「環境公共」の役割や具体的なイメージを県民の皆さんにわかりやすく紹介するため、マンガ「みんなで守ろう！山・川・海をつなぐ水」とガイドブック「環境公共とおき水循環区マップ」を作成しましたので、その内容を紹介します。なお、2つの冊子は、「環境公共」ホームページにも掲載しています。

### みんなで守ろう！山・川・海をつなぐ水

マンガ「みんなで守ろう！山・川・海をつなぐ水」は、「環境公共」が、生き物が棲める豊かな環境や美しい景観を守り、さらには地球温暖化の防止に果たす役割をわかりやすく紹介するものです。

マンガは、小学生の兄妹（環太<sup>かんた</sup>さんと 境子<sup>きょうこ</sup>さん）が、学校帰りに出会った妖精（しずく）と一緒に山・川（里）・海を訪ねながら、豊かな森を育てる作業や鳥類のすみかでもある「ため池」の環境保全、魚を育む環境づくりなどの取組を通して、「環境公共」の大切さを学んでいくストーリーとなっています。



表紙

### 環境公共とおき水循環区マップ

ガイドブック「環境公共とおき水循環区マップ」は、森林や里地里山、海における「環境公共」の具体的なイメージとして、県内18の「環境公共とおき水循環区」を紹介し、実際に体験してもらうためのものです。

マップでは、各水循環区の場所や現地までのルート、所要時間、探訪のポイントなどを掲載しています。



マンガの1ページ



環境公共とおき水循環区マップ（桜沢沼地区）

## ホタテ貝殻を利用した魚礁<sup>ぎょしょう</sup>※1による水産資源増大への取組

青森県は、三方を海に囲まれ、日本海や津軽海峡、陸奥湾、太平洋といった地域ごとに多くの種類の水産物が水揚げされる豊かな漁場が広がっています。しかし、近年では、沿岸漁業の生産量が全国的に減少する傾向にあり、水産資源の増大と漁場環境の保全・再生を図る漁場の整備が求められています。

このため、青森県では、豊かな漁場づくりを進めるため、魚礁の設置や藻場<sup>もば</sup>※2の造成などに取り組んでいます。今回は、本県の未利用資源であるホタテ貝殻を利用した魚礁による水産資源増大への取組事例について紹介します。

※1 魚礁とは

魚礁とは、海底の起伏をコンクリートや鋼製により人工的に造成した魚類が集まる場所のことです。

※2 藻場とは

海底にコンブやホンダワラなどの大型の海藻が林のように生えている場所のことです。藻場は、魚の産卵・生息場所となるほか、二酸化炭素の吸収や海水をきれいにする働きがあります。

青森県のホタテ生産量は約8万トン、生産額は100億円の規模で安定した養殖体系が確立されています。しかし、その一方では、ホタテ生産の副産物として、毎年4～5万トンの貝殻が発生しており、その有効な活用方法として、ホタテ貝殻を取り付けた魚礁の設置が進められています。

右の写真は、ホタテ貝殻を取り付けたコンクリート製の魚礁です。これを海底に設置し、ホタテ貝殻の効果を確認したところ、魚類のえさとなるエビやゴカイなどの小動物の繁殖やアイナメの産卵などが確認されました。



ホタテ貝殻を取り付けた魚礁

ホタテ貝殻に産卵されたアイナメの卵



鋼製高層魚礁（高さ21m）



魚礁に集まるメバル

左の写真では、鋼製の魚礁にコンクリートモルタルで固定したホタテ貝殻を取り付けています。このホタテ貝殻に小動物が発生し、それをえさとする魚類が集まり、豊かな漁場が作られています。

このように、地場の資源でもあるホタテ貝殻を利用した魚礁が、魚のえさ場や産卵場としての機能を発揮し、水産資源の維持・増大に貢献することが今後とも益々期待されています。